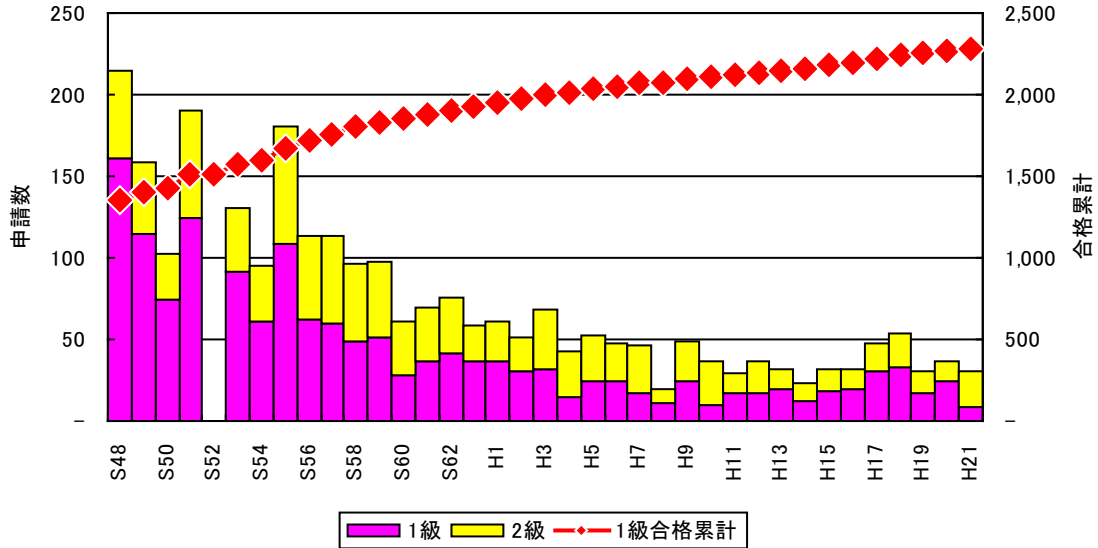


印章彫刻職種の概要

作業追加等の経緯	昭和45年度	職種新設(印章彫刻作業)
	昭和55年度	作業分離(→木口彫刻作業とゴム印彫刻作業へ)
	平成17年度	試験細目等の最終見直し

試験実施状況

印章彫刻職種 受検申請者数の推移



		H16	H17	H18	H19	H20	H21	累計	
木口彫刻作業	1級	申請	20	30	32	17	24	9	3,638
		合格	14	26	24	12	19	9	2,203
	(率)	(70.0%)	(86.7%)	(75.0%)	(70.6%)	(79.2%)	(100.0%)	(60.6%)	
	【直近6年間の受検申請】山形県、栃木県、東京都、神奈川県、富山県、山梨県、静岡県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、高知県、福岡県、大分県、宮崎県(15) (実施公示のみ) 群馬県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、佐賀県(10)								
2級	申請	12	18	21	14	13	21	1,813	
	合格	12	15	17	13	12	21	1,292	
(率)	(100.0%)	(83.3%)	(81.0%)	(92.9%)	(92.3%)	(100.0%)	(71.3%)		
【直近6年間の受検申請】山形県、栃木県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、高知県、大分県、宮崎県(13) (実施公示のみ) 群馬県、富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県、鳥取県、岡山県、福岡県、佐賀県(11)									
ゴム印彫刻作業	1級	申請	-	-	1	-	-	-	116
		合格	-	-	1	-	-	-	80
	(率)	(-)	(-)	(100.0%)	(-)	(-)	(-)	(69.0%)	
	【直近6年間の受検申請】東京都(1) ※H15以降実施公示なし								
2級	申請	-	-	-	-	-	-	42	
	合格	-	-	-	-	-	-	37	
(率)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(88.1%)	
【直近6年間の受検申請】(0) ※H15以降実施公示なし									

1 印章彫刻 1 級技能検定試験の試験科目及びその範囲並びにその細目

(1) 技能検定試験の合格に必要な技能及びこれに関する知識の程度

印章彫刻の職種における上級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度を基準とする。

(2) 試験科目及びその範囲

表 1 の左欄のとおりである。

(3) 試験科目及びその範囲の細目

表 1 の右欄のとおりである。

表 1

試験科目及びその範囲	試験科目及びその範囲の細目
<p>学 科 試 験</p> <p>1 印章一般</p> <p>印章の意義</p> <p>印章の歴史</p> <p>印章の種類及び用途</p> <p>印章に関する法令</p> <p>2 印章彫刻法一般</p> <p>印稿及び判下揮ごう</p> <p>彫刻法の種類及び特徴</p> <p>3 印章文字</p> <p>文字の歴史</p> <p>印章文字の書体</p> <p>4 材 料</p> <p>印材の種類、特徴、鑑別法及び用途</p>	<p>印章の意義及び重要性について、詳細な知識を有すること。</p> <p>1 印章の起源について、一般的な知識を有すること。</p> <p>2 日本の印章の歴史について、一般的な知識を有すること。</p> <p>1 実印、銀行印、認印、訂正印、角印(官公印、社印及び蔵書印)、割印、役職印及び落款印の用途について、一般的な知識を有すること。</p> <p>2 手形印、小切手印、住所印、日付印等のゴム印及び浸透印の種類と用途について、一般的な知識を有すること。</p> <p>3 鑄造等ゴム印について、一般的な知識を有すること。</p> <p>印章に関する法令について、一般的な知識を有すること。</p> <p>1 印稿及び判下の書体について、詳細な知識を有すること。</p> <p>2 筆、墨等の印稿及び判下の作業用具及び材料について、一般的な知識を有すること。</p> <p>彫刻法の種類及び特徴について、詳細な知識を有すること。</p> <p>1 文字の起源及び変遷について、一般的な知識を有すること。</p> <p>2 六書について、一般的な知識を有すること。</p> <p>次に掲げる印章文字の書体について、詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 篆 書 (2) 隸 書 (3) 楷 書</p> <p>(4) 行 書 (5) 草 書 (6) 古印体</p> <p>(7) 明朝体 (8) ゴシック体 (9) その他</p> <p>次に掲げる印材の種類、特徴、鑑別法及び用途について、詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 象 牙 (2) 牛角(うしのつの) (3) 柘^{つげ}</p>

試験科目及びその範囲	試験科目及びその範囲の細目
<p>印章附属品の種類及び用途</p> <p>5 安全衛生</p> <p>安全衛生に関する詳細な知識</p> <p>6 前各号に掲げる科目のほか、次に掲げる科目のうち、受検者が選択するいずれか一の科目</p> <p>イ 木口彫刻法</p> <p>木口彫刻用具の種類及び用途</p> <p>字入れの方法</p> <p>木口彫刻の方法</p>	<p>(4) 合成印材 (5) 石印材 (6) ゴム板</p> <p>(7) その他</p> <p>次に掲げる印章附属品の種類及び用途について、一般的な知識を有すること。</p> <p>(1) 印 肉 (2) スタンプ台 (3) 印章ケース</p> <p>(4) その他</p> <p>1 印章彫刻作業に伴う安全衛生に関し、次に掲げる事項について、詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 機械、器工具、原材料等の危険性又は有害性及びこれらの取扱方法</p> <p>(2) 安全装置、有害物抑制装置又は保護具の性能及び取扱方法</p> <p>(3) 作業手順</p> <p>(4) 作業開始時の点検</p> <p>(5) 印章彫刻作業に関して発生するおそれのある疾病の原因及び予防</p> <p>(6) 整理、整頓^{とん}及び清潔の保持</p> <p>(7) 事故時等における応急措置及び退避</p> <p>(8) その他印章彫刻作業に関する安全又は衛生のために必要な事項</p> <p>2 労働安全衛生法(昭和47年法律第57号)関係法令のうち印章彫刻に関する部分について、詳細な知識を有すること。</p> <p>木口彫刻用具の種類、用途及び各部の名称について、詳細な知識を有すること。</p> <p>次に掲げる字入れ作業について、詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 印稿の書き方 (2) 配字の方法</p> <p>(3) 転写の方法 (4) 文字と枠との対比</p> <p>(5) 文字数と行数の字割りの方法 (6) 廻文の字割りの方法</p> <p>次に掲げる木口彫刻の作業について、詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 印面調整の方法 (2) 印刀の刃付け方法</p> <p>(3) 荒彫り作業の方法 (4) 仕上げ作業の方法</p> <p>(5) 印影の撮り方及び印矩と印^く褥^{じょく}の使用方法</p>

試験科目及びその範囲	試験科目及びその範囲の細目
<p>ロ ゴム印彫刻法</p> <p> ゴム印彫刻用具の種類及び用途</p> <p> 判下作業の方法</p> <p> ゴム印彫刻の方法</p> <p>実 技 試 験</p> <p> 次の各号に掲げる科目のうち、 受検者が選択するいずれかの科 目</p> <p>1 木口彫刻作業</p> <p> 字入れ</p> <p> 木口彫刻</p> <p> 判下作業</p> <p>2 ゴム印彫刻作業</p> <p> 判下作業</p> <p> ゴム印彫刻</p>	<p> ゴム印彫刻用具の種類、用途及び各部の名称について、詳細な知識を有すること。</p> <p> 次に掲げる判下作業について、詳細な知識を有すること。</p> <p> (1) 判下の字割りの方法 (2) 判下の揮ごうの方法</p> <p> 次に掲げるゴム印彫刻作業について、詳細な知識を有すること。</p> <p> (1) ゴム板の磨き方法 (2) ゴム刀の刃付け方法</p> <p> (3) 判下の転写方法 (4) 切廻し及びびさらい刀の使用 方法</p> <p> (5) 押し型の撮り方</p> <p> 字入れができること。</p> <p> 木口彫刻に関し、次に掲げる作業ができること。</p> <p> (1) 印刀の刃付け (2) 荒彫り (3) 仕上げ</p> <p> 判下の製作ができること。</p> <p> 判下の製作ができること。</p> <p> ゴム印彫刻に関し、次に掲げる作業ができること。</p> <p> (1) ゴム刀の刃付け (2) 判下の転写 (3) ゴム印彫刻</p>